

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	島 原 市 立 第 一 中 学 校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	33
児童数	198	170	173	2	541	

研究の概要

1. 研究主題

『生徒一人一人が「確かな学力」を身につけるための実践研究』 ～生徒一人一人の実態に応じた効果的な学習指導をめざして～

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生・国語 研究に関する加配があり、これまでの数学における研究成果もあり、当該学年で教科の枠を広げて研究に取り組むため。 ・ 3年生・数学 前年度の研究を継続し、学力調査等のデータと比較しながら研究に取り組むため。また、生徒の理解の状況に差ができてきている学年であり、受験に向けてより一層の学力向上への期待があるため。

(2) 年次計画

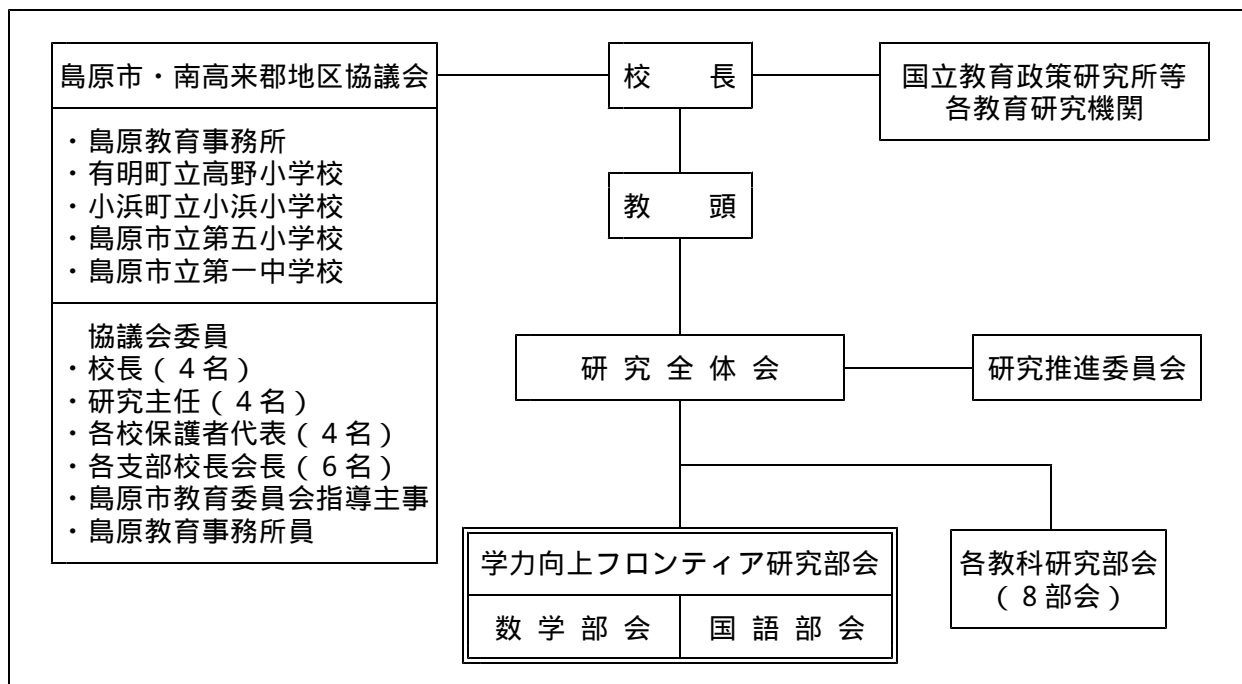
平成14年度	<p>テーマ 習熟度別学級による指導法の工夫と改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 学力差がはっきりしている数学においては、習熟度別に分けた少人数クラス編成による、生徒一人一人の学力に応じた教科指導をすることによって、興味関心を高め、確かな学力を身につけさせることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 週1時間の数学部会、研究推進委員会の実施及び定期的な研究部会の実施 ・ 習熟度別クラス編成の方法についての研究 ・ 個に応じた指導法の工夫 ・ 習熟度別の指導評価 ・ 研究授業および中間指導(平成14年12月16日実施) </p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 数学科 習熟度別学級による指導法の工夫と改善 国語科 教材・学習内容による指導形態と指導法の工夫・改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 数学科 学力差がはっきりしている数学においては、習熟度別に分けた少人数クラス編成による、生徒一人一人の学力に応じた教科指導をすることによって、興味関心を高め、確かな学力を身につけさせることができるだろう。 国語科 国語科の特性を考慮して、教材や学習内容に応じた学力均等少人数クラス、習熟度別少人数クラス、興味関心別少人数クラス、T・T、一斉クラスなどによる指導形態をとり、指導方法を工夫することによって生徒の興味関心を高め、確かな学力を身につけさせることができるだろう。</p>
--------	--

平成 15 年 度	<p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の数学部会，国語部会の実施 ・各単元での指導計画の見直し（年間指導計画の見直し） ・習熟度別少人数クラス等のクラス編成の方法についての研究 ・習熟度別編成のための形成的評価テスト，確認のための総括的評価テストの作成と実施 ・評価方法についての研究 ・個に応じた少人数コースにおける指導方法の工夫 ・数学教室の設置および学習環境整備 ・習熟度別少人数授業についてのアンケートの実施・集約（保護者，生徒） ・中間指導および授業研究会（平成15年6月18日、平成15年10月8日）の実施 ・先進校視察，研究発表会への参加による研修と資料収集
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 2年間の実践を通しての工夫・改善およびまとめ</p> <p>仮説 2年間の実践を反省し，さらに工夫改善に努めることで，よりよい習熟度別少人数クラス編成による指導ができ，生徒の学力向上につながるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回の数学部会，国語部会の実施及び定期的な研究推進委員会および研究部会の実施 ・各単元での指導計画の見直し ・習熟度別指導によるカリキュラム編成の見直し ・習熟度別クラス編成の方法についての研究 ・習熟度別編成のための形成的評価テスト，確認のための総括的評価テストの作成と実施 ・個に応じた指導法の工夫 ・習熟度別少人数授業についてのアンケートの実施・集約（保護者，生徒） ・中間指導および研究発表会の実施 ・先進校視察，研究発表会への参加による研修と資料収集
--------------------	---

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・アンケートの結果より、習熟度別少人数授業を8～9割の生徒が肯定しており、質問しやすい点、発表回数が増えた点を挙げている。のびのびと自分の考えを述べる生徒が増えてきている。(国語科)
- ・アンケートの結果から、習熟度別少人数指導の実施に対しては、生徒も保護者も9割近く賛成であり、きめ細やかな指導が受けられ、「わかる喜び」を感じている生徒が多く、期待度も大きい。(数学科)
- ・習熟度別少人数指導での生徒の自己評価の結果は、次のようになった。(数学科)
 - 「良かった」と答えた生徒が51%(165名中83名)
 - 「どちらかという良かった」と答えた生徒が46%(165名中77名)
 - 「どちらかという嫌だった」と答えた生徒が3%(165名中4名)
 - 「嫌だった」と答えた生徒が0%(165名中0名)
- ・基礎コースと発展コースの進度差を少なくするため、1単元の中で、習熟度別少人数授業をする内容と一斉(T・T)授業をする内容を明確化した。その結果、習熟度別少人数授業の指導法の改善ができた。
- ・習熟度別少人数授業を公開した結果、管内においても習熟度別少人数学級での指導に取り組む学校が増えてきた。

2. 今後の課題

- ・少人数指導では、コース分けのための形成的評価テストや確認のための総括的評価テストを実施するため、どうしても時数が増えてしまう。時数調整のカリキュラムに軽重をつけながら、授業の進め方を工夫していくことが必要である。
- ・習熟度別少人数授業を実施した場合、基礎コースと発展コースでの進度の差の調整が必要である。そのためには、各単元ごとに習熟度別少人数授業をする内容と一斉(T・T)授業をする内容の再検討が必要である。
- ・各コースの特性に応じた教材の準備と教材の開発が課題である。
- ・基礎・基本がまだ十分定着していない学力下位の生徒に対しては、基礎学力向上のための指導法の工夫がさらに必要である。
- ・習熟度別少人数クラスの編成方法。生徒の希望は基礎コースに集中するが、学力下位の生徒の基礎学力向上をねらうためには、基礎コースの人数をしばらく抑えたいと考えている。そのため、習熟度にあったコース選択ができるための助言の仕方や生徒自身の選択能力を高めることが課題である。
- ・コース別に分けたあとの評価の在り方。テスト等の工夫。
- ・コース選択後のグループの中で、リーダーとなる生徒の育成

・学力把握のための学校の取り組みについて

- ・学力調査の実施(年1回)

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・年1回の教育事務所管内の学校参加による研究授業発表及び授業研究(時期は未定)
- ・教育事務所管内中学校での少人数指導に関するアンケートの実施と集約結果の報告
- ・ホームページによる成果の発表(<http://www.shimabara.jp/dai1-chu/>)
(現在内容の追加・変更中)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	